

皆さんこんにちは。2学期終業式、3学期始業式が11月に一度に行われるという学校は、長野県内でも本校だけでしょう。私の知る限りでも40年以上、このシステムは継続しているわけですが、気持ちの切り替えを行うにはちょうど良いタイミングでもあると思われます。さて、1、2年生の皆さんは期末テストが終了し、ほっとしているところではないでしょうか。3年生の皆さんは通常の授業もあと十日余り、共通テスト、一般入試に向けての準備もいよいよ佳境を迎えているところでしょうか。インフルエンザなど様々の感染症も心配されておりますので、できるだけの対策にも心掛ける必要があるのではないかと思います。

さて、皆さんは卒業後になってしまいますが、3年後の2026年に本校は創立150周年を迎えます。この150周年の準備はすでに始まっておりまして、百年誌以来となる百五十年誌の編集委員会が頻繁に行われていますし、母校生徒の皆さんのために行う支援の内容について、そのための寄付の集め方など、準備がスタートしています。

一方、感染症のためにストップしていた各地の支部総会も今年度より再開されており、私も今年度に入って何カ所か全国を行脚して参りました。明日からは関西支部総会に出席する予定です。関西支部では若い皆さんを対象として独り暮らしの生活相談を行ったり、名所旧跡巡りを開催して若い同窓生に早く地域に慣れてもらうような取り組みも行っている様子です。将来関西方面へ進学される方は、よろしければこうした同窓会活動に参加されてみてはいかがでしょうか。

そうした中、10月に行われた東北支部総会のために仙台にうかがった時のことを少しお話したいと思います。仙台と言えば、今年2年生の皆さんが研修旅行で訪問し、被災地を見学しての防災に関する学習や、東北大学各学部の訪問を行ってきました。総会に出席された方のかなりの比率の方が東北大学を退職されたか、現在勤務しておられる先生方及び、学生の皆さんでした。他の支部の総会にうかがった時も、私の個人的な感覚でデータが取れているわけではありませんが、大学の先生方や研究機関に所属される方の比率が高いことを感じました。もちろん大学関係者に限らず、各企業の研究者や経営者をはじめ、様々な分野で深志高校の卒業生の皆さんは活躍をされているわけですが、深志の卒業生に大学での研究者の皆さんが多いというのは、学問において、大学というところが精神的に自由であるからなのではないかなと感じています。学問の自由の重要性については、中学校での公民や、高校での現社、公共等で学んできたと思いますが、学問の研究において自由にものを考えることができるのが大学であり、そうでなければ学問の発展は途絶えてしまうわけで、大学で研究するということの真価は自由・自治にあると私は思っています。そうした考え方を高校の学びにおいても実践しているのが深志高校であり、そうした学び、自由と自治の気風の中で生活し、探究してきた方々だからこそ、卒業してもなお、自由・自治を希求して大学での研究活動を継続し、さらに深志高校の会合に顔を出すのかもしれないと勝手に感じている次第です。

昨年広島県の教育長の平川理恵さんが、深志高校を視察しながら、「大学へ行って、いきなり自由の海に解き放たれても、自由に泳ぐことは意外に難しい。高校の先生方のもとで学ぶことの自由に触れるからこそ自由を守ることの大切さに気付くのではないかしら、そうした意味でも深志高校のあり方は貴重」とおっしゃっていたことが、リフレインをしてきました。

また、本校の卒業生で、現在立命館大学にお勤めで教育哲学を専門とされる西村拓生先生は、ご自身の著書の中で次のようにおっしゃっています。「自分自身で考え、学び、信じる道を自分自身で切り開いていくことこそ真の自由である。そしてその自由を維持するためには、所属する組織において、自治が必要であり、逆に組織における自治を形成するためには、自由でなければならないという表裏一体のものである。」

そうした学びの環境を、皆さんは本校で先輩たちから脈々と引き継いでいるのではないか思うのですが、いかがでしょうか。

もう一点、仙台で印象的だったこととお話しします。支部の同窓会に参加した方々の多くは、仙台で震災を経験されています。彼らの専門分野は実に様々なのですが、話しをお聞きしていると、自分たちの研究成果を防災や新エネルギー開発、被災地復興に結びつけることを念頭においているということが伝わってきました。特に若い世代の専門の異なる方々が、専門分野を超え、互いをリスペクトしながらそうした話をされていたことが印象的でした。皆さんの強烈な体験が、学びや研究のモチベーションにつながっているということを感じると同時に、深志高校での学びは、大学での学びにつながり、やがてそれは被災地に関わる学び、平和に関わる学びにつながっていくのかもしれない。深志生の皆さんには、校内の成績も目の前のモチベーションとしては大切ですが、さらにその先につながる学びであることを、たとえその学びが何であるか具体的にわからなくても、そういう学びであることを考えていってほしいなあと、東北で感じました。

さて、最後に、3年生の皆さんへ、とりあえず、目の前の目標に向けて、今は最後のひと踏ん張りの時期です。ここまでやってきた自分の力と、これからの伸びしろと今やっていること、やっている教材を信じて、最後まで粘り強く夢に向かって挑戦してほしいと思います。応援しています。

1, 2年生へ、現学年も半分以上が過ぎました。今の生活を振り返り、これから続く深志高校での生活で何を伸ばしていきたいか、見直していきたいかを考えてみて下さい。また、今の自分の見える範囲の外にも目を向けて、幅広く興味関心を抱き、学び、新たな自分にも気が付いてほしいと感じています。

深志高校は実に忙しい学校だと生徒の皆さんはおっしゃいます。それだけに、「切り替え」と「集中」を心がけ、自分自身のタイムマネジメントに心がけるようにしてください。私も今日の終始業式が時間内に終わるよう、タイムマネジメントを考えながらしゃべってきました。終わります。